

神の国

「しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。」(マタイの福音書 12:28)

神の国の性質

神の国(天の御国)とは神が世界に来られて、この罪深い世界にあるサタンの支配と力などあらゆる力に対して力と栄光と権威を持っておられることを現し、具体的に示されることである。また神が人間世界の流れの中でご自分の目的を達成しご自分とご計画を人々に示すために、今現在かかわりを持ち活動をしておられるそのことでもある。けれどもそれは霊的救いや教会(キリストに従う人々全員の共同体)の働きだけを意味するものではない。それは神が世界や個人の人生の中で働いてご自分の力を強力に表現されることそのものである。

(1) 簡単に言えば、神の国は神の力が活動していることが宣言され具体的に示されることである。神は王として神の民の心と活動の中で地上の霊的支配を始めておられる(ヨハ14:23, 20:22)。そして自分を神にささげる人々を通してご自分の目的を実現することにされた。またご自分が創造された世界とかかわるために全能の力を持って来られた(イザ64:1, マコ9:1, 1コリ4:20)。けれどもこの力は物理的・政治的力ではない。なぜなら神はご自分の支配する権力、力、権威を富や戦力など地上のものを通して証明しようとしておられないからである。むしろ神はご自分の力を用いて霊的な変化を起こされる。神の国は地上の政治組織を通して支配し、神の基準を世界に強制するような政治的神政国家(神の政治支配)ではない。また世界の国々を社会的・政治的に支配することでもない(ヨハ18:36)。社会的あるいは政治的運動や暴力によって世界を救い改革することも神の現在の目標ではない(マタ26:52, →ヨハ18:36注)。悪の力を覆すためにキリストが地上に再び来られるまで(黙19:11-21)この世界は神の敵であり続け、神の民と神の目的に反対をし続ける(ヨハ15:19, ロマ12:1-2, ヤコ4:4, 1ヨハ2:15-17, 4:4)。

(2) 神は最高の力を持つ方としてご自分を現されるので、罪深い世界は絶えず危機に直面している。世界が自分勝手な道を進みサタンが支配するのを許しているので、神はさらに強力に力を現され悪魔の帝国に警告をされる(マタ4:3~、12:29, マコ1:24)。「神の国は近くなった」と聖書が言うときには(マコ1:15, ルカ10:11)人々に神の支配に従うかそれとも反抗を続けるかという決断を迫っているのである(マタ3:1-2, 4:17, マコ1:14-15)。神の国に入るために必要な最も根本的な条件は「悔い改めて福音を信じ」ることである(マコ1:15)。悔い改めとは神に対する態度を変え、自分の罪を認めて自分勝手な道から離れ、神に全部ゆだねて自分の目的ではなく神の目的に従うことである。

(3) 神が介入される(みこころを実現するために人間の活動の中に神が直接入って来てかかわること)ときには神の力が現される。(a) サタンの破壊的活動と邪悪な支配に対して霊的力を行使される(マタ12:28, ヨハ18:36, →「サタンと悪霊に勝利する力」の項 p.1726)。実際に神の国が来たことはサタンの支配の崩壊が始まったことであり(ヨハ12:31, 16:11)、人々を悪霊の力と支配(マコ1:34, 39, 3:14-15, 使26:18)と罪(ロマ6:)から解放されることによって示されている。(b) 神は力を用いて奇蹟を行い病人を癒される(マタ4:23, 9:35, 使4:30, 8:7, →「神による癒し」の項 p.1640, 「御霊の賜物」p.2138)。(c) 神に従う人々がキリストのよい知らせを広める。それは「信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力で」あり(ロマ1:16)、罪と義とさばきについて誤りを認めさせるからである(マタ11:5, ヨハ16:8-11, 使4:33)。(d) キリストのメッセージを受入れ自分勝手な道から立返って神のご計画に従う人は神の力によって霊的に救われ変えられ、成長をしていく(→ヨハ3:3, 17:17, 使2:38-40, Ⅱコリ6:14-18, →「信者の霊的聖別」の項 p.2172)。(e) キリストは従う人々に聖霊によってバプテスマを授け(浸す、おおう)、キリストのメッセージを広めてその目的を達成する力を与えられる(→使1:8注, 2:4注, →「聖霊のバプテスマ」の項

p.1950)。

(4) 神の国を体験していることを示す証拠はその人の生活が「義と平和と聖霊による喜び」(ロマ14:17)の生活になっているかどうかである。

(5) この神の国には未来と現在の両面がある。神は目的を達成するために人々を通して働いておられるけれども、それは今日の世界にある現在の面である(マコ1:15, ルカ18:16-17, コロ1:13, ヘブ12:28)。けれども神はまだ御国を完全なかたちで現しておられないし、世界も神の最大の力と権威をまだ体験していない。したがって神が世界の終りのさばきを行われ、キリストが地上に再び来られるまで、サタンと邪悪な人々の働きや影響は継続していく(1テモ4:1, 2テモ3:1-5, 黙19:19-20:10)。神の栄光と力と御国が明らかにされるのは主イエスが歴史の最後のときに悪の勢力を覆し世界をさばいて地上を平和に支配されるときである(マタ24:30, ルカ21:27, 黙19:11-20, 20:1-6)。神の国の究極の完成はキリストがあらゆる悪と反抗に最終的に勝利して神の国を父である神に渡されるときのことである(1コリ15:24-28, 黙20:7-21:8, →マコ1:15注)。神の国の性質、特徴、活動についての概要 →「神の国とサタンの国」の表 p.1711

キリストに従う人々の神の国での役割

神に忠実な人々の神の国での役割について新約聖書は多くのことを伝えている。

(1) キリストの弟子たちには絶えず神の目的に従い、あらゆることを通して神の生活基準に従う責任がある。それは特権でもある。そうすることによって神の臨在と力が周りの人々に明らかになっていく。そのためには自分自身の生活やキリスト者の共同体の中で、神の臨在と力を求める霊的飢え渇きが必要である(→マタ5:10注, 6:33注)。

(2) マタイの福音書11章12節で主イエスは神の国に入る人々の性質と特徴についてさらに情報を提供しておられる。そして主は「激しく攻める」人が天の御国を「奪い取」ることを明らかにされた。これは神を敬わない人類の罪深い慣習から離れる努力をし、キリストとみことばと神の完全な目的を見つけるまで一生懸命求めることである。そういう人は犠牲がどんなに大きくても神の国を全力で求めるのである。つまり天の御国とその恩恵を全部体験するためには信仰が成長するように、そしてサタンと罪と墮落した社会の影響を退けるように絶えず努力しなければならない。

(3) 神の国は霊的に飢え渇いていない人、つまり滅多に祈らず神のことばを軽んじ神を敬わない世間の慣習や生活様式に歩み寄り人々には与えられない。神の国に入るのは男性で言えば、ヨセフ(創39:9)、ナタン(11サム12:7)、エリヤ(1列18:21)、ダニエルと三人の友人(ダニ1:8, 3:16-18)、モルデカイ(エス3:4-5)、ペテロとヨハネ(使4:19-20)、ステパノ(使6:8, 7:51)、パウロ(ピリ3:13-14)のような人々であり、女性で言えば、デボラ(士4:9)、ルツ(ルツ1:16-18)、エステル(エス4:16)、マリヤ(ルカ1:26-35)、アンナ(ルカ2:36-38)、ルデヤ(使16:14-15, 40)のような人々である。

神の国に入るには神と悪の両方が存在すると教えられた。これは神の間にも悪が存在するという意味ではなく、むしろキリストを知っていると公言している人々の中には平まじめで不忠実な人がいて信仰の妥協を神のことばの基準を無視しているという意味である。神に反抗する世俗的な行動を許し、認め、あるいは

神に反抗する世俗的な行動を許し、認め、あるいは... (3) たとえば... (4) ほとんどのたとえの中でキリストは地上の目に見える国には神と悪の両方が存在すると教えられた。これは神の間にも悪が存在するという意味ではなく、むしろキリストを知っていると公言している人々の中には平まじめで不忠実な人がいて信仰の妥協を神のことばの基準を無視しているという意味である。神に反抗する世俗的な行動を許し、認め、あるいは